

2019年7月29日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 小杉社長の抱負

私のビジョンは、日本テレビのDNAである、「今まで人のやっていないことをやる」ことで、自ら歴史をつくることの実践。そして、中期経営計画の「テレビを超える」というテーマの遂行。具体的には、生活接触時間ナンバー1を目指す総合コンテンツ企業として、地上波放送で完結するのではなく、さらに新規領域にも進出したい。

社内へは、グループ全体が明るく元気に業務を遂行できるように「社員全員がチーフハピネスオフィサー（CHO）として、幸せを作る責任者になろう」というメッセージを送った。

2. 視聴率動向と編成戦略

2019年第30週の世帯視聴率は8週連続の三冠王。月間の視聴率では、6月、7月と2か月連続で三冠王を獲得した。6月と7月を比較すると、2位の放送局との差を若干広げることができ、7月は視聴率が全体的に回復傾向にある。

3. 営業状況

・放送収入

今年度の第一四半期の決算は減収減益だった。ネットタイムセールスはレギュラーパン組に関しては好調であるが、去年のW杯サッカーの影響で、前年比では減少となった。スポットセールスは5月の長い連休の影響やスポット広告市況低迷の影響により不調になった。

・放送外収入

映画事業では、蜷川実花監督の「ダイナー」は興行収益が10億をこえる大ヒットになり、ご支援に感謝している。

「アルキメデスの大戦」は7月26日（金）に公開した。戦艦大和を題材にした山崎貴監督の超大作で、公開3日間の動員が26万5000人を超える、大変良いスタートになった。

「ドラゴンクエスト ユア・ストーリー」は、8月2日（金）に公開する。こちらも山崎貴監督が総監督の作品。ドラクエの世界を3Dアニメにしたもので、全くこのゲームを知らない人も楽しめる作品なので、ぜひ足を運んで頂きたい。

イベント事業では、「みんなのミュシャ」を渋谷のBunkamuraにて開催しており、好評を頂いている。

4. その他

・「謎とき冒険バラエティー 世界の果てまでイッテQ！」の祭り企画について

放送倫理・番組向上機構（BPO）の放送倫理検証委員会から通知された意見をふまえ、当社の意識が欠落していた部分を見直し、実践していく。社内では、BPO委員とクリエイターとの直接の対話などの取り組みを実施していく予定。

「祭り企画」については、BPOの意見書に「完成度の高い祭りに出会えることを期待する」とあるので、条件が整ったところで、再開するつもりで準備している。

・吉本興業について

7月26日に書面で申し入れをした。内容は、1. 第三者による調査委員会を設置して、事実関係を早急に確認すること 2. 反社会勢力との関係を遮断する施策を速やかに提示すること 3. ガバナンスを徹底する施策を速やかに提示すること、というものだ。

・インターネット上の常時同時配信

日本テレビでは、インターネットの同時配信について、収益性、権利者の許諾、生活者のニーズ、ネット局のコンディションという4つの側面から総合的に検討していきたいと考えている。

(了)

小杉 善信 代表取締役 社長執行役員

廣瀬 健一 取締役執行役員

福田 博之 取締役執行役員